

ひだまり

令和6年1月27日（土）
足立区立中川東小学校
道徳通信 第9号
校長 豊田 純子
道徳教育推進教師 前田 康介

家庭でも…育てていきたい道徳性

前号では、本校の道徳授業の指導内容についてお伝えしました。今回号では、子供たちの道徳性を「家庭」でどのように育てていったらよいのか考えていきたいと思います。

子供たちの道徳性を育てていくのは、子供たちよりも多くの経験をしてきた大人の責務であると考えています。私たち大人は、子供たちに何をどのように伝えていくことが大切なのでしょう。

情報化社会の今、子供たちは主体的に情報を収集したり活用したりしています。学習ではより効率化を図れるメリットがある一方で、あらゆる考え方が情報として流通している中で、子供たちの生き方や考え方がよくないものへと洗脳されてしまうことが懸念されます。

これからさらに加速する情報化社会を生きていく子供たちには、善悪の判断に基づいた確固たる道徳性をもたせる必要があるのではないのでしょうか。そのような道徳性を育むために、まずは大人自身がぶれない道徳性をもつことが大切です。

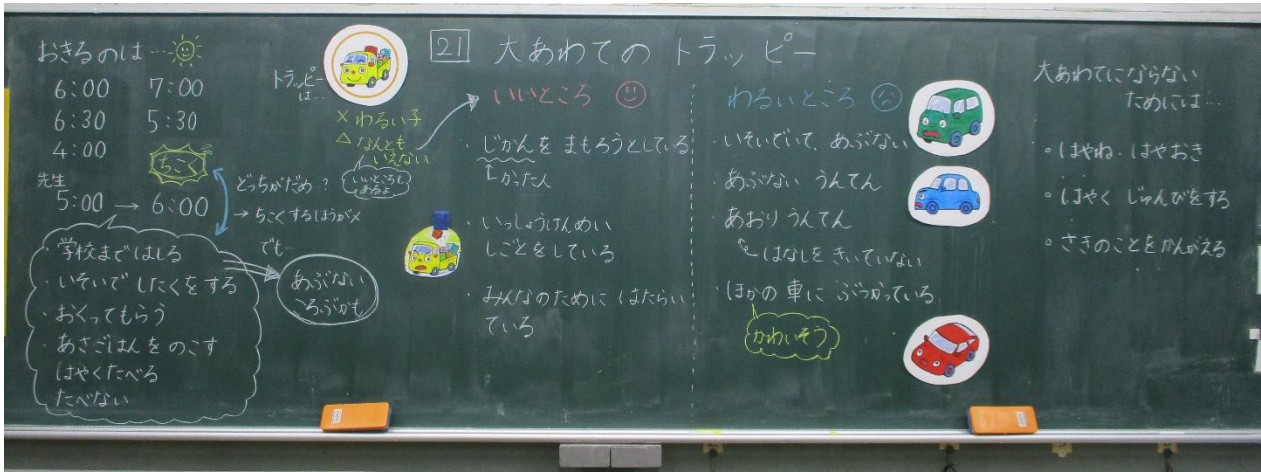
こんな時、ありませんか？
(ある日)今日はお出かけしてくるから、家で自由にゲームしてもOK！
(またある日)いつまでゲームしてるの！！もう止めなさい！！

各家庭で、ゲームやスマホのルールはあると思います。きっと、子供たちの健康面や生活習慣の面を配慮し、ルールを設定されていることと思います。ですが、決めたルールを破ってしまう形を数回行ってしまうと、子供たちの中で「健康のことを考えて、ルールは守らなくちゃいけない」という善悪の判断がぶれたり、「ルールは、人の都合によって変わるかも！」と規則を尊重する道徳性もぶれたりすることに繋がってしまいます。では、そのような時、何をどのように伝えればよいのでしょうか。

(木登りを例に)「木登りは、落ちて怪我をしたら危険だから、一人ではさせない。でも、木登りはバランス感覚や体幹を鍛えることができるから、補助できる大人がそばにいる時にやろう！」
このように、良い・悪いの判断やその理由を大人が明確にもち、子供たちに事前に伝えることが重要です。事前に伝えることで、子供たちは似たような場面に出会った時、大人の伝えたことを想起し、自ら正しく善悪を判断することができるようになります。

子供たちの道徳性を家庭でも育てていくためには、まずは大人が確固たる道徳性をもつこと。そして、折に触れ、善悪や道徳性に関する教えを伝えることが必要なのではないのでしょうか。

◇1年生の道徳の時間◇



<令和6年1月 宮村学級>

教材名：『大あわてのトラッピィー』

主題名： 気持ちのよい生活 （授業のテーマを「主題名」と表します）

このお話には、荷物を届ける仕事をしているトラックのトラッピィーが登場します。あるとき寝坊をしたトラッピィーは、朝ごはんのガソリンも入れずに慌てて走り出しました。周りの車にぶつかりそうになったり、注意をされたりしたにもかかわらず、スピードを上げて走り続けます。そして、最後にはガソリンが切れて動けなくなってしまったという内容です。

授業では、トラッピィーのよいところとよくないところについて考えました。時間を守ろうとしていることや一生懸命仕事をしているところはよい一方、急いでいることや危ない運転をしていることは悪いことだという意見がありました。

また、慌てないためには、早寝早起きをすることや先のことを考えることが大事であることに気付くことができました。そして、周りの人のことも考えた節度ある生活をしようとする気持ちを高めました。1年生の子供たちには残りの3ヶ月でさらに力を付け、新しく入学してくる1年生にいろいろなことを教えてあげられる存在になってほしいです。